

明拓聖教序

大
唐

太宗文
皇

帝制衣三
藏聖教序

蓋闡二
儀有象顯

覆載以
合生四時

「落ち穂拾い記」
 『雁塔聖教序碑・清初拓精本』
 ⑤③
 ②

図版① 晩翠軒コロタイプ影印本
 「宋拓雁塔聖教序」



図版④

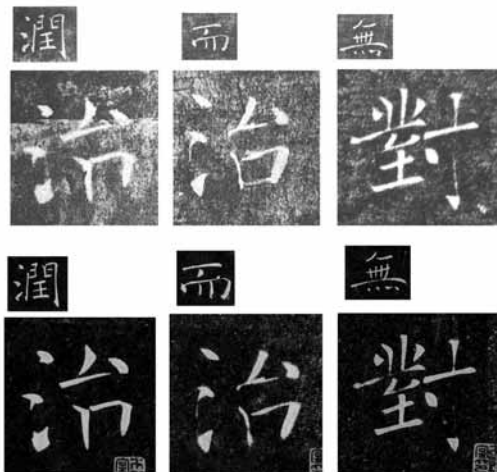
清初拓家蔵本



晩翠軒本

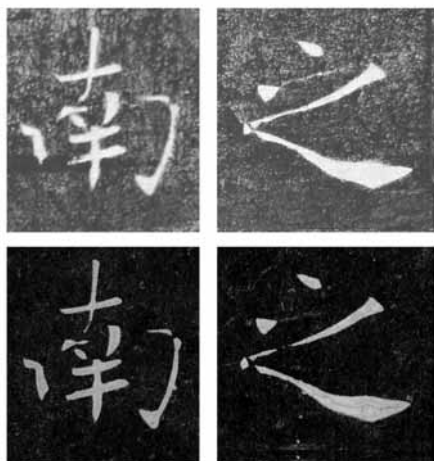
家蔵本

図版②



図版③ 拓調の濃淡比較
 晩翠軒本

家蔵本



30代前後の頃であろうか、京都の古書店の通信販売目録に、白黒の小さな写真で紹介された『雁塔聖教序碑』を見つけ、注文したことがあった。届いて原物を見てびっくりした。絹の纏れたシフクに包まれ、中身は葡萄木の美事な封面の烏金拓の『雁塔聖教序碑』であった(図版④)。羅紋箋の装丁で、序碑、記碑ともほぼ同じ拓調であり、内側に張り直された旧題簽には篆書で「明拓聖教序」とあった(石頁主図版)。碑拓本を扱うときの必須の書「増補校碑隨筆」の旧拓条件に両「治」字未封、また「對」の「寸」部の縦画が細いままとあり、この条件を満たしている清初拓の善本であった(図版②)。当時手元に置きよく比較していたのが、戦前の晩翠軒からコロタイプ版で精印された高島槐安居蔵の『宋拓雁塔聖教序』であった(図版①)。この底本は、戦後東京国立博物館に寄贈された。常設展でも時折展示されている。この高島槐安居蔵の晩翠軒本とあれこれ比較した。晩翠軒本は、擦拓であり拓調が大変に淡く、字画が鮮明であるが、家蔵本は、拓調が逆に重く烏金拓に近いが、拓調は鮮明であり、点画の大変細い部分は拓墨に覆われ見えないところがある(図版③)。しかし真っ黒な中に、雁塔聖教序碑の美事な抑揚ある伸びやかな文字が浮かび上がり、いい拓本と考えていた。まだ大学に籍を置いていた頃であろうか、書道科の伊東参州先生に見ていただいたことがあった。先生はこの烏金拓本に近いものよりも、文字の点画がよりよく鮮明な晩翠軒本や書学院本を好まれた。当時、家蔵旧本と晩翠軒本を比較して、1ヶ所疑問のある部分を見つけた。記碑の旧拓の根拠となる「而治」(8行目)「潤治」(18行目)の2ヶ所の「治」字がある(図版②)。その前者が欠画していないように見える。長らく疑問であったが、その後、カラー版が影印され、また原本のデータが公開されたりして、共に欠画していることを確認した。戦前のコロタイプ版では、当時の職人が製版段階でなんらかの加工を加え、字画を修正したのであろうと推測している。

伊藤滋(書齋名・木鷄室)

書のひろば

理事長 下谷洋子

第75回毎日書道展 事務局会議開催

4月9日(火)、如水会館にて第75回毎日書道展に向けた事務局会議が開催されました。出席者は、毎日書道会役員と各部主任以上、一部委員です。

まず初めに、徳増信哉専務理事のご挨拶がありました。続いて今回展の実行委員長室井玄聳先生から75回展「墨承と改革の年」、継承は記念行事の「墨魂の群像」、改革は公募出品料の変更・漢字部の字数の変更などが報告され、皆さんで力を合わせて情熱を持って成功に導きたいとのメッセージをいただき、総務部長(渡辺美明先生)、審査部長(薄田東仙先生)、陳列部長(大森哲先生)と、続きました。書道会理事・監事他毎日新聞社や書道会の担当役員の紹介後、各担当に分かれての打ち合わせに入り無事終了しました。

書を取りまく環境が変わってきた近年ですが、記念展でもあり、充実した75回展になるよう、院の皆さんのご協力もお願いします。

春の「書道芸術」 特別昇級試験審査終了

4月末、春季特別昇級試験の審査

が終了しました。三種はかな・漢字条幅のみでしたが、今回はかなの三種の受験者がかなり少なくなりました。かなはなかなか難しい分野のため根気が必要かと思いますが、是非諦めずに挑戦して下さい。

総評や各月短評、師範合格者模範作品などは6月号に掲載します。今回原級留置きや思うように昇級されなかった方は、また次回に向けて普段の月例競書からおろそかにせず励んで下さい。古典・古筆の臨書は毎回同じ書籍です。一年かけて準備出来ます。

書道博物館 企画展 敦煌写本の世界

—蔵経洞のたからもの—

年に一度の恒例企画「みんなが見たい優品展 パート19 中村不折コレクション」から

今回は、博物館所蔵の敦煌写本が一挙公開されるそうです。

敦煌写本とは、敦煌莫高窟にある蔵経洞から1900年に発見された写経や文書類をさします。それまで拓本や模本などで編集されてきた古代中国書道史の楷書や隸書の変遷が、肉筆によってつぶさに観察出来るようになりました。敦煌を中心に、トルファンや鄯善(楼蘭)などから出土した写本が紹介されます。ギャラリートークなど関連イベントも多いため、訪中もままならない近年、貴重な学書の機会として下さい。

前期 5月26日まで
後期 5月28日～7月15日

問い合わせ 03-3872-2645
(書道博物館)

根津美術館 特別展国宝・燕子花図屏風

—デザインの世界—

尾形光琳による国宝「燕子花図屏風」は、群青色を分厚く塗った花卉や緑青の葉で燕子花が群生している屏風として有名ですが、絵とデザインの境界線上に位置する作品と言われ、日本の工芸品の意匠と絵画との関係性、和歌や物語とも関わるなど……多様な指摘がされています。



燕子花図屏風(半双) 尾形光琳筆

根津美術館では、その「燕子花図」を中心に近世の作品を取り上げながら、デザインの観点から日本の美術を見つ

めるというユニークな企画が開催されています。4月13日～5月12日

6月15日 香川倫子先生お別れの会

本院顧問香川倫子先生は去る2月9日にご逝去されました。ご葬儀は近親者のみで執り行われましたが、本院にとりましては副会長を長い間されましたこと以外に、本院創立者のメンバーであった香川峰雲・春蘭先生のご息女でもあったため、「お別れの会」を計画しています。すでに本院常任総務以上の方々にはご案内していますが、まだ時間がありますので、会員の皆さんのご協力をお願いします。(詳細は事務局まで)

第53回日本の書展開催

公財全国書美振興会が主催の「日本の書展」は、会派を超えた現代書壇を代表する書家の展覧会で、今年はずでに関西展が開催されました。東京展は、公募臨書作品も展示されます。関西展以降

中部展 5月28日～6月2日 愛知芸術文化センター
東京展 6月13日～6月23日 国立新美術館
九州展 7月2日～7月7日 福岡市美術館
第一会場(巨匠・代表・委嘱) 福岡市美術館
第二会場(招待・秀技) 福岡県立美術館

最終回となりましたが、Q&A形式による小竹先生の自作解説です。
問 鈴木漢の詩「天狼」の一節、「飢渴は墨々魂を星に似せる」ですが、この詩文を選んだ理由を教えてください。

「内なるすべての志向と渴仰の果てに輝く星」という、詩人の天空の星への思いが伝わってくる詩だったのでこれを選び、力強く雄大に表現してみようと思った。

問 使用した筆について教えてください。

力強さと雄大さの両方を出すためには保墨力の良い羊毛が適していると考え、大きめの羊毛長鋒を使用しました。

問 「墨々」の「々」が「々」になっているようですが……？

日本詩文書作家協会の草創期には、「々」は文字ではなく記号なので漢字おどり字は「々」ひらがなは「々」と書くべきであるという指針があった。もっとも、最近では「々」も認められていますが、書をする者にとってはやはり「々」は使いませんね。

問 横に広がる、雄大で迫力のある作品ですが、ご自身の評価を伺います。

筆のタッチ、運筆の速度により生命感、雄大さ、迫力は表現できたと思う。線情から生まれる格調の高さは今の私の腕前からは成功の部類に入ると思う。混沌とした暗黒の宇宙の果てを思い浮かべながら書き続けるうちに思いも広がって楽しく書けた。「墨々」が読みづらいとの指摘を受けたが、自らの思いと可読性のバランスを取った結果、このようになった。

問 先生にとって、現代詩文書とは？

詩文の思いを筆文字で表現するもの。文字の持つ力を生かすためには読めることが前提になると思う。長期間にわたってのお付き合い、ありがとうございます。



第74回毎日書道展

基礎基本講座



千葉蒼玄 鎮魂と復活

東日本大震災の衝撃で、文字の魂により押し寄せる波を表現した



前衛書の表現のアプローチに関する異なる考え方を要約すると

文字の意味を重視

文字の形よりも、その持つ意味や精神性に焦点を当て、文字が伝えるメッセージや感情に重点を置き、それを通じて芸術を表現する。

文字の造形を変化

現行の文字から新しい造形を生み出す挑戦。甲骨文の発見を通じて、文字の形そのものを変化させる。

文字以外から連想

文字以外の要素、抽象絵画や前衛音楽からの影響を受け、異なる芸術形式との連携を試みる。

絵画的手法

書にとられず、他の芸術分野からの要素を取り入れ、新しい用具（キャンバス、墨以外の素材）を使用する方法。

今回の基本講座は主に「文字の造形を変化」について解説したが、それ以外の考え方も存在する。前衛芸術は既存の概念や形式から自由であり、先駆的かつ実験的な表現を試みるという本質に基づいている。新しい形式や意味を追求することで、従来の芸術の枠を超えた表現ができる。最後に森田子龍の言葉を紹介する。「書は文字を書くことを場所として、内の躍動が外におどり出て形を結んだもの」

書道芸術院 令和の群像 (2024)



小沢華仙

書道に感謝

書道を始めた動機は24歳の時に生涯を通して学べる趣味を持ちたいと思い、家の近くにあった斎藤華城先生の書道塾に入門さ

せて頂いたことです。

ここでは華城先生が発行している書道誌『東華』の競書と古典の臨書を中心に「指導を頂きました。ようやく書くことが楽しくなってきた入門14年目の頃に華城先生が亡くなり、書道への情熱も薄れてきました。ちょうどその頃、私の仕事(市役所勤務)

も忙しくなり書道にかけ

る時間が取れなくなってきましたが書道を断念することになりました。その後数年経過した頃、辻元大雲先生が袖ヶ浦市民会館で教えていることを知り、再び書道をやりたいという衝動に駆られ早速入会させて頂きました。

ここでは、多くの門人が、競書や臨書、各種展覧会への出品など幅広く熱心に勉強されておりました。特に現代詩文書や展覧会への出品は私にとっ

て初めての経験であり、大変新鮮に感じ勉強になりました。やがて、白扇



第36回袖ヶ浦美術展「俊太郎の詩」

小沢華仙書

展、県展、書道芸術院展、毎日展と徐々に上位の展覧会にも出品することになり、多くの先輩や書友とも出会い交流の輪も広がって行きました。

仕事を持ちながらの書道の勉強は、仕事に忙しく筆を持つ時間が取れない時もしばしばありました。ある時、先輩に「小沢さん書いていない？」と聞かれ、仕事が忙しくて書いていないですと答えると、「忙しい時には忙しい時の勉強の仕方があるんじゃないの、半紙1枚書く時間も取れないの、『1枚で作品を仕上げる』。これを続けて行けば短時間で作品をまとめる良い勉強になるんだよ」と言われ、目から鱗が落ちる思いがしました。

仕事を持ちながら書道をしていると、書かない言い訳はいくらでも出てきます。この言葉を聞いてからは、どんなに忙しくて疲れていても、酒に酔って帰っても、明日大事な仕事があっても、必ず「1枚は書く」を続けました。

「何かやらなければいけない時は言い訳を考えずにまずやる」

この教訓は今でも私の中で生きています。今年75歳になり後期高齢者となりますが、公民館書道教室(3教室)の指導や書道団体や美術展などを通して多くの人との交流や作品作りなど、楽しく充実した日々を送ることが出来ているのも、書道と出会い、続けて来たからだと思っています。

書道に感謝です!

これからも、この状況が長く続くよう願っています。

書道芸術院 令和の群像 (2024)



安藤華祥

「書と私」

まず、このページを埋めるには私には荷が重く思いましたが、70年、書が続いている者の戯言としてお読み下されば幸いです。書との出会いは5歳の時。私の兄弟3人がバスで隣の書道教室に通い、いつも知り合いの菓子店からご褒美にお菓子を頂いて来ることに憧れ、親にせがんで習い始めました。先生と奥様はとても優しく面倒見が良く通うのがとても楽しみでした。結婚後は自分の時間がほとんど無い毎日でした。書道教室、ソロバン教室、主人が引き受けてくる書とほとんど関係ない雑用、3人の子育て、姑の世話、家事全般で書が書けるのは夜中です。眠気と戦いながら途中で筆がぼとりと落ちたり、教室で指導中に立つ

たまま寝てしまえばいい転びそうになったりの連続でした。落ち着いて書を勉強できる環境では全くありませんでした。でも止めようとは一切思いませんでした。特に28歳で書道教室を開いてからは自分の未熟さを常に感じ、少しでも上手になりたい一心でした。教室では羊毛筆と濃墨を使用して指導しておりましたが、町の学生展の審査会で私以外は別の書道会の先生でしたので、私の社中の作品がごとごとく濃墨で汚いと駄目押しされ、当時若く書が未熟な私は言い返せず悔しい思いをしました。このことがきっかけで剛毛で指導している先生を捜し10年ほど御指導頂き羊毛・剛毛どちらの良さも知ることができました。苦手だった近代詩文書も別の先生に弟子入りし、自分に足りない分野を埋めるような習い方をしておりました。最終的に漢字をもっと上手になりたいと思っていた時に教

材屋さんから、今一番勉強し、教え方が上手と高橋百谷先生をご紹介して頂きました。厳しく優しい指導のもと次から次と課題を与えて頂き褒め上手なことも加わり本気で頑張ろうと意欲が湧きました。書を始めてから5人の先生にご指導頂き、百谷先生亡き後は年2回講師の先生をお迎えして社中だけの錬成会を開いたり、東京などで開催される素晴らしい書展を見て回ったり、書道展出品、社中展開催、教室での指導、今まで時間が無く本棚に眠っていた中国・日本の書道古典シリーズ・総合書道辞典などを見るのが今の私の勉強です。35年間も習い続けている方や孫の代まで繋いでいる方がおりますのでしっかりと勉強して指導しなければと責任を強く感じます。46年間教室を続けておりますが、少子化が進む中、多くの習い事もあり書道人口が減る一方でとても残念です。大人の方も高齢化が進んでおりますが、人生百年と云われる時代ですので、前向きに心と体の健康のためにも書が続けて頂きたいと願っております。

現在はかけ足で過ごした日々が嘘のようなゆったりとした日常生活が送れ、幸せを感じております。残された人生を楽しめる教室で皆さんと交わり一緒に勉強して生きられたら最高の人生だと思っております。



第76回書道芸術院展「銜華佩實」

安藤華祥書

書道芸術院 令和の群像 (2024)



岡田 瑠 韻

「継続は力なり」

「継続は力なり」。このよく聞く言葉がかつては苦手だった。しかし、書に携わって半世紀になる今、自分にも書友にも弟子にもその通りだと思えるようになった。

2年前、ほんの不注意から転倒し、右肩複雑骨折で2ヶ月の入院・治療を余儀なくされた。その結果、今でも右腕は真上に上

げることができず、右手親指は麻痺したままで重い物は持てない。入院中は、鉛筆でも持てるようになったのだが、筆を持つのが結構疲れる。ケガをしたのが左肩ならどんなに良かったらうと思つことしきりだが、頭を打たなかったのが不幸中の幸いであった。「前衛書」が専門の私は、今までは強い線が引きたい、紙を切るような強い線をと力まかせであった。力を抜くことの大事さを年齢とともに感じたのであるが、ケガの

あと、力いっぱい線が引けないなら、ロマン溢れる美しい線を引こうと思うが、これがまた仲々大変である。退院後はとにかく、臨書に励んだ。筆を持てる喜び、墨の美しさ、紙の良さ。臨書はたいそう楽しい。「継続」だが、21才で毎日展に初出品以来、院展、群馬県展、高崎市展に休むことなく出品した。それも、健康であり支えてくれる家族、書友のおかげである。

こんなに長く書が続けてこられたのは、良き師との出会いがあったから。小学生の頃から学校が大好きだった私は、ずっと学校にいられる教員になった。「学校に行けばおもしろい人たちに会える。」そんな動機からであったが、高校で生徒たちには書道ってこんなに楽しいよ。書道ってすばらしいと語り続けた。

我が師、故・山本聿水先生は、漢字もかなもペン字もすばらしかった。大学の書道科で立派な教授陣の教えも受けたが、今でも我が師、山本先生が私の中では一番である。

そんな先生存命中、私、39才の時、個展をしたいと話したところ、1年間作品をみるから準備なさいと応援して下さい、初めての個展を勤務先の藤岡市の小さなギャラリーで開くことができた。壁面いっぱいに掛けられた自分の作品を見て、抽くとも嬉しかった。それから、49歳・59歳・節目の年・69歳と計6回の個展をした。69才の銀座の個展は、コロナ禍で東京に緊急事態宣言が出され、銀座に人通りなく淋しかったが、それでもたくさんさんの院の先生方に観て頂くことができて幸せだった。

いつも、書きたい題材がたくさん！まだまだ書くぞ。「継続は力なり」。



2021 銀座大黒屋ギャラリー個展「動」

岡田 瑠 韻 書

第77回書道芸術院展〈2〉

(併催 第75回記念全国学生書道展)

実行委員長

小竹石雲

第77回書道芸術院展(併催 第75回記念全国学生書道展)については、令和5年3月4日に開催された理事会において、その大綱が次のように決定された。

○第77回書道芸術院展

1 会期 令和6年2月6日(火)
2月11日(日)・(祝)

2 会場 東京都美術館(上野公園内)
3 募集規定

ア 無鑑査、一般公募の部
イ 作品・書類搬入

ウ 鑑別・審査
令和5年11月27日

エ 審査会員、審査会員候補の部
イ 書類搬入 令和6年1月17日

ウ 作品搬入 令和6年1月27日
ウ 審査
・ 審査会員候補
令和6年1月28日

4 作品解説会(都美術館)
・ 審査会員 令和6年1月29日
令和6年2月6・11日

5 一般表彰式
(浅草橋ヒューリックホール)

6 祝賀懇親会…中止となりました。
7 出品サイズ(単位 cm)

(1) 財団理事・監事

A 91×242 B 152×152

C 121×182

(2) 財団評議員・参事・審査会員

D 61×242 E 79×182

F 85×176 G 106×136

H 121×121

(3) 審査会員候補

I 61×182 J 73×152

K 91×121 L 105×105

(4) 無鑑査

M 46×167 N 86×86

(5) 一般公募
書作品

O 35×136 P 25×167

Q 65×86

篆刻作品

R 30×39

刻字作品

S 51×61

T 30×91

U 35×67.5

8 一般公募出品料

(1) 30歳以上 7000円

(2) 30歳未満および70歳以上 3000円
(令和6年1月1日現在)

9 運営委員会

○運営委員長

下谷洋子

○運営委員

小竹石雲 後藤大峰
飯沼恵鳳 石井明子

10 実行委員長 小竹石雲

11 実行副委員長 後藤大峰

12 事務局次長 片岡豪峰

13 事務局次長 佐藤菜扇

14 総務部長 東福青室

15 審査部長 坂本素雪

16 陳列部長 三浦鄭街

17 表彰部長 太田蓮紅

18 会計部長 近藤尚子

19 1 募集規定

ア 出品資格

第一部 幼児、小学生

第二部 中学生

第三部 高校生

第四部 大学生、専門学校生

イ 部門 ①半紙の部 ②半切1/2の部

両部門に出品できる。

ウ 作品締め切り・搬入

令和5年10月24日

エ 審査 令和5年10月31日

イ 褒賞 A 個人賞

B 団体賞

令和5年11月5日

2 学生展表彰式

(浅草橋ヒューリックホール)

3 運営委員会

運営委員長 下谷洋子

以下実行委員長、実行副委員長、

陳列部長、会計部長、事務局次長、事務局次長は院展、学生展共通。

総務部長 長島優雨

審査部長 川島舟錦

表彰部長 崎井恵風

揮毫部長 大平邑峰

4 審査役員

A 賞審査員(6名)

A 賞選考委員(8名)

中央審査員(17名)

5 指導者作品展示(143点)

ア 出品資格

・ 本展出品指導者

・ 「書道芸術学生版」指導者

・ 書道芸術院審査会員

イ 作品寸法

・ 半紙額内自由

○運営委員会

第77回書道芸術院展運営委員会を令和5年6月17日の理事会に合わせ

行った。

* 審査会員の作品について

〈褒賞〉

書道芸術院春華賞(1名)

選考は運営委員(財団理事・監事)

が担当。(名誉会員、参与会員、選

考は運営委員(財団理事・監事)

が担当。(名誉会員、参与会員、選

考は運営委員(財団理事・監事)

が担当。(名誉会員、参与会員、選

考は運営委員(財団理事・監事)

が担当。(名誉会員、参与会員、選

考は運営委員(財団理事・監事)

が担当。(名誉会員、参与会員、選

考は運営委員(財団理事・監事)

が担当。(名誉会員、参与会員、選

考は運営委員(財団理事・監事)

が担当。(名誉会員、参与会員、選

考は運営委員(財団理事・監事)

が担当。(名誉会員、参与会員、選

考は運営委員(財団理事・監事)

が担当。(名誉会員、参与会員、選

考は運営委員(財団理事・監事)

が担当。(名誉会員、参与会員、選

考委員、参事で過去の理事・監事経験者、過年度受賞者は対象外）
春華賞候補作品には赤シールを添付し公表する。

○審査会員候補の作品について

〔褒賞〕

書道芸術院大賞（1名）

書道芸術院準大賞

（各部を通して5名）

白雪紅梅賞（各部を通して若干名）

この他、同候補となった作品については「書道芸術院俊英賞」とする。

○選考委員は運営委員（財団理事・監事）が担当。

*無鑑査の作品について

〔褒賞〕

院賞、毎日新聞社賞、特選、秀作とする。

○審査員

漢字部 主任 前田龍雲はじめ10名

かな部 主任 松村くに子はじめ5名

現代詩文書部

主任 鈴木承琳はじめ7名

篆刻・刻字部

主任 大沼樵峰はじめ2名

前衛書部

主任 太田蓮紅はじめ7名

○審査事務委員

漢字部 主任 大山和歌子はじめ8名

かな部 主任 田村玲子はじめ3名

現代詩文書部

主任 小沢華仙はじめ5名

篆刻・刻字部

主任 津村紫幸はじめ2名

前衛書部

主任 野口加奈はじめ6名

*一般公募の作品について

〔褒賞〕

入選作品のなかから審査して、準特選、佳作、褒状を与える。

○審査員

漢字部 主任 三浦鄭街はじめ7名

かな部 主任 無鑑査審査員と兼任

現代詩文書部

主任 大平邑峰はじめ6名

篆刻・刻字部

主任 無鑑査審査員と兼任

前衛書部

主任 無鑑査審査員と兼任

○審査事務委員

漢字部 主任 菊池昌春はじめ5名

かな部 主任 無鑑査審査員と兼任

現代詩文書部

主任 古谷紫風はじめ4名

篆刻・刻字部

主任 無鑑査審査員と兼任

前衛書部

主任 無鑑査審査員と兼任

○実行委員会

第77回書道芸術院 実行委員会を開催。併催の第75回記念学生展についても同様。

○第77回書道芸術院展作品搬入

・一般公募出品数

452点 昨年は59点減

・無鑑査出品数

657点 昨年は32点減

・審査会員候補出品数

603点 昨年は15点減

・審査会員出品数

520点 昨年は5点増

○鑑別・審査

一般公募と無鑑査作品の鑑別・審査が、令和5年12月9日共和国館に

於いて行われ、漢字部と現代詩文書部は10日が残務となった。コロナも収束しつつあることもあってほとんどの審査員、審査事務の先生出席のもと無事終了できた。

○無鑑査に対する賞

院賞11点（漢4、かな1、現詩3、

篆刻・刻字1、前衛2）

毎日新聞社賞4点

特選73点

秀作176点を決定

入賞率40%

○一般公募に対する賞

準特選33点（漢14、かな4、現詩10、

篆刻・刻字1、前衛4）

佳作99点

褒状139点

入選181点

入賞率60%

○審査会員候補に対する特別賞選考

令和6年1月28日

○審査会員に対する書道芸術院春華賞選考

令和6年1月29日

東京都美術館地下審査室で行われた。

今回は、選考委員（財団理事・監事）全員出席のもと、審査会員候補及び審査会員に対する賞の審査を部門毎に行い、選出された入賞候補の作品を従来のように全員の投票による審査という形で行った。最終決定は、運営委員長他、常務理事2名と審査部長に一任していただき、運営委員の承認を得て決定した。各賞及び秋季展などの出品者選考なども

同様に行った。

その結果書道芸術院大賞に、現代詩文書部・佐藤祥扇（山口県）さん。書道芸術院準大賞5点（漢2、か1、現詩1、前衛1）

白雪紅梅賞10点

（漢4、現詩3、篆刻・刻字1、前衛2）

書道芸術院俊英賞44点

春華賞は現代詩文書部・大平邑峰（岡山県）さん、となった。

○第75回記念全国学生書道展

第75回記念全国学生書道展には北海道から九州まで全国から作品が寄せられ、令和5年10月24日に締め切った。出品点数は半紙の部が1030点。半切の部249点。

審査は令和5年10月31日～11月5日にかけて、A賞審査6名、A賞選考委員8名、中央審査員17名によって行われた。優秀作品が多く、一作一作に時間をかけて審査。

その結果、全国学生書道展大賞に半紙の部7点、半切の部4点、準大賞に半紙の部13点、半切の部5点が選ばれた。なお、上位入賞者の作品と個人賞の氏名、団体賞については、第75回記念全国学生書道展成績表冊子に掲載された。都美術館では見応えのある作品が地区別に展示され見事であった。

○陳列

今回展より入選作品以上全て陳列することとした。

2月4日、三浦鄭街陳列部長のもと、院展、学生展、指導者作品展を含む計3つの膨大な数の作品展

示を行った。

今回も、陳列部長を中心に、作業にあたる人員を少なくし陳列業者（川端商会）に作業員の増員をお願いした。

○記者会見

2月4日15:30から毎日新聞ほか報道関係の方々にお集まりいただき、運営委員長による展覧会概要、審査報告、常務理事による学生展概要の説明が行われた。

○評論家の眼

跡見学園女子大学文学部教授・横田恭三様、游墨社太田文子様に依頼し、作品評価をいただいた。批評は作品脇に掲示し、さらに印刷して參觀者にも配布した。

「横田恭三」の眼

板橋雅邦、坂本大龍、京 絹子、都丸みどり、石川三峰の各氏。

「太田文子」の眼

西川藤家、治田芳江、小川香燐、佐藤初香、大嶋珀晔、倉林紅瑤の各氏。

○「書道芸術院推薦作家展」出品者の足跡

昨年秋季展併催としてアートサロン毎日で開催した企画展は、その後の作家の足跡として、会場内に集約して陳列した。

○作品説明会

2月6日14:00から推薦作家展出品者の作品解説を会場内で行った。2月11日10:30から役員による作品解説会を行った。その後、審候・無鑑査・一般などの参加者についても個別に丁寧な批評解説が行われた。

○ワークショップ

2月11日午前、企画委員が中心となり、学生展の会場にてカレンダー作りの内容で実施した。

○書写指導者のための講演会

2月11日10:30から武蔵野大学教授広瀬舟雲先生による書写指導のノウハウについての講演が楽しく行われた。ほかの行事とのバッティングがあり参加ができなかった人もいた点が、残念でした。

○全国学生書道展席上揮毫会・表彰式

2月10日表彰式に先立って午前10時より、学生展会場において、大賞受賞者による席上揮毫会を行った。大賞受賞者にふさわしい立派な揮毫会となった。

その後午後1時より、浅草橋ヒューリックホールにおいて毎日新聞社事業本部次長兼企画文化事業部長田中義郎様をお迎えして表彰式を挙げた。

○書道芸術院展表彰式

表彰状授与は、下谷洋子運営委員長をはじめ財団理事・監事が務めた。毎日小学生新聞賞、毎日新聞社賞については田中義郎様をお願いした。

学生展表彰式に続いて15時30分より、同会場にて、書道芸術院展の表彰式が挙行された。

ご来賓は、毎日書道会専務理事徳増信哉様をお迎えした。

春華賞、大賞、準大賞は下谷洋子運営委員長より授与。以下の賞については、財団理事・監事により授与。ご来賓の徳増信哉様には毎日新聞社賞の授与とともに激励のご祝辞をい

ただいた。

最後に受賞者を代表して、書道芸術院大賞に輝いた現代詩文書部の佐藤祥扇さんからの謝辞があった。

○祝賀懇親会 中止

○総務部

学生展、院展とも総務部は、書類搬入から作品搬入、整理、審査準備、陳列準備、撤回、搬出まで、東福青篁、長島僊雨、おふたりの部長には、長期にわたりご苦労願った。

○審査部

学生展は川島舟錦審査部長、一般は坂本素雪審査部長のもと、事務局、総務部と連携し、審査事務削減の中、審査、事務処理ともに順調に進めていただいた。

○会計部

会計部は広範囲で多岐にわたる中、学生展と第77回展の全てを滞りなく処理していただき、事業終了後の残務も含め、近藤尚子担当に感謝。

○運営事務局

今回も、院展、学生展とともに、運営の全てに運営事務局には、多大なご苦労をおかけした。また、各部の当番審査員並びに事務委員の人数割り出しをはじめとした各種業務を各部署と連携して事務処理にあたっていただいた片岡豪峰事務局長・佐藤菜扇事務局次長には、深く感謝申しあげます。



運営委員集合写真



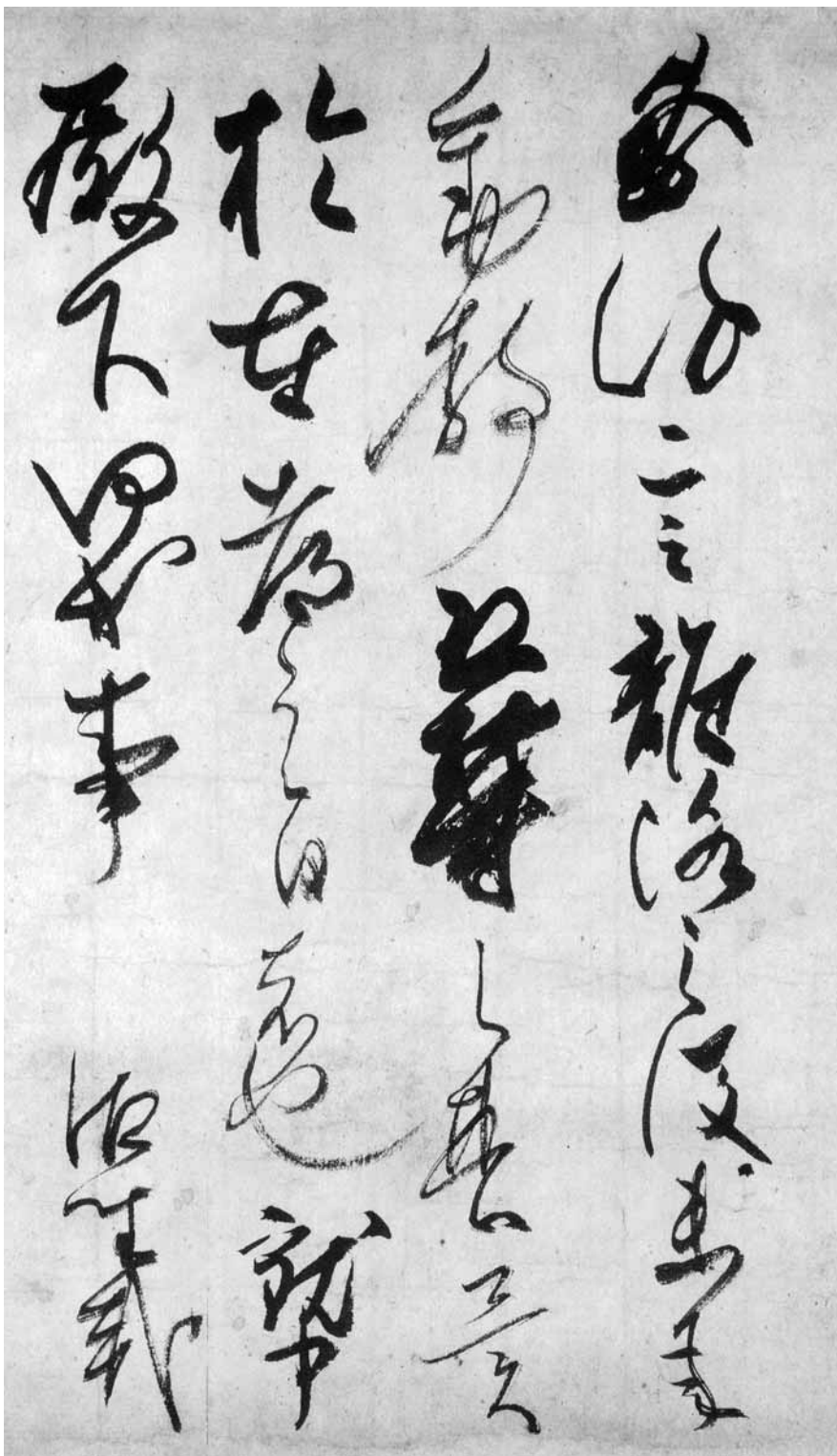
作品研究会

〈解説〉今月は「離洛帖」、佐理48歳の書。正暦2年(991)、春の除目で太宰府の次官(大宰大貳)に任じられた佐理は、京を出立する際に摂政・藤原道隆に挨拶することを忘れてしまった。長門国赤間の泊(山口県下関市)でそのことに気づき、甥の誠信にこの書状を書き、詫びの取りなしを依頼したのであった。自らを「旅土」としていることが事情をよく表わしている。

「恩命帖」で樹立した独特の行草体の書風はさらに進化を遂げ、スピー

ド感あふれる筆遣いが紙面全体に縦横無尽に展開されている。無理のない潤渾や肥瘦の表現が、緊張感のある世界を現出させている。佐理の最高傑作であり、和様書道の到達点の一つと言える。
 なお、冒頭の署名は佐理の「草名」であり、「左」と「里」の草体を合体させたものとされている。他人に真似されないように創作されたものではあるが、52ページに骨書きとともに筆順の案を示したので、参考にして下さい。

(編集部)



※掲載図版70%に縮小

佐理 謹言。離洛之後、未承／動靜、恐辭之甚、異／於在都之日者也。就中／殿下何等事御坐哉。

(皇山記念館蔵)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみ可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

(A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可)
 (B. 小品の部—半切 $\frac{1}{2}$ 以上半切以内、全紙 $\frac{1}{2}$ 以内も可(A・B縦横自由)) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

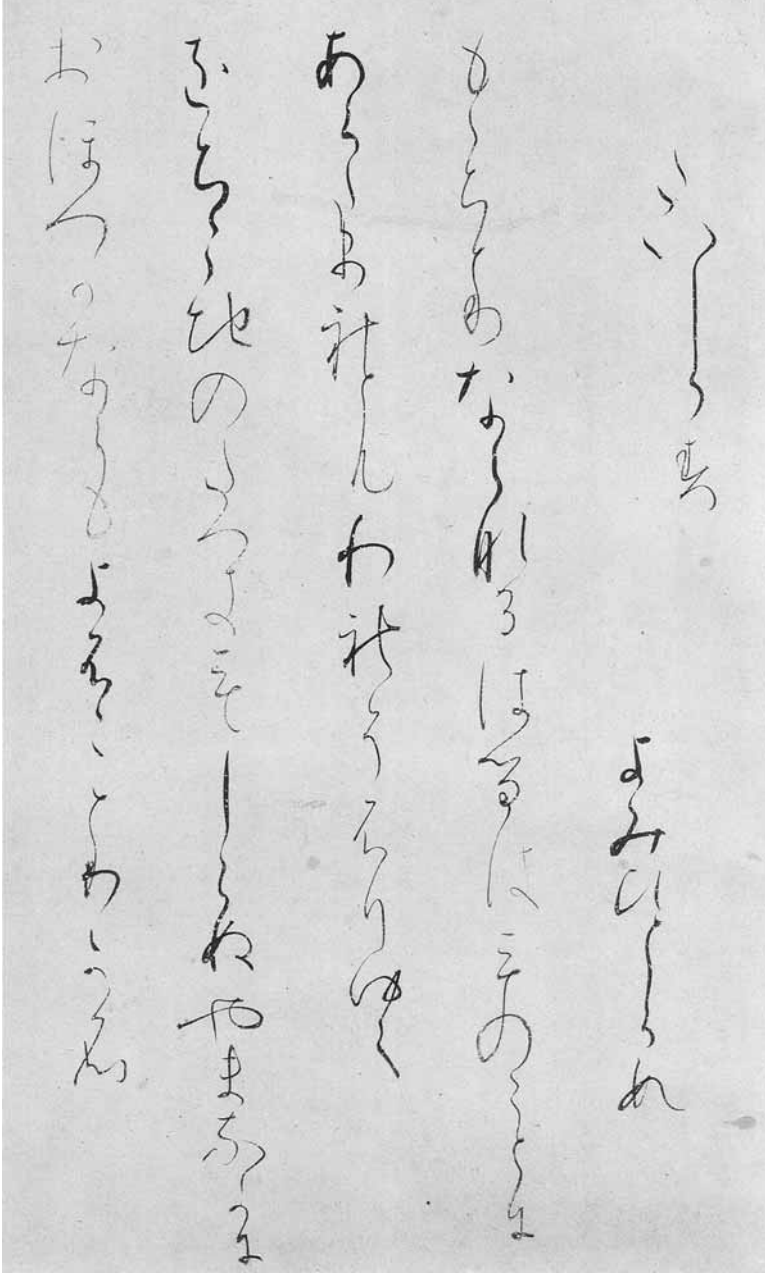
古筆鑑賞

242

高野切第一種
(伝紀貫之筆)

②

〈よみ〉
 多^多だいしらす^春／よみびとしらす^敷／も^ちど^りなり^なる^はも^のこ^とに[／]あ^らた^まれ^ども^われ^どふ^りゆ^く／を^ちこ^ちの^地
 多^支たづき^毛も^しら^ぬや^まな^かに[／]お^ぼつ^かな^くも^よぶ^こど^りか^な
 多^利たづき^毛も^しら^ぬや^まな^かに[／]お^ぼつ^かな^くも^よぶ^こど^りか^な
 多^利たづき^毛も^しら^ぬや^まな^かに[／]お^ぼつ^かな^くも^よぶ^こど^りか^な



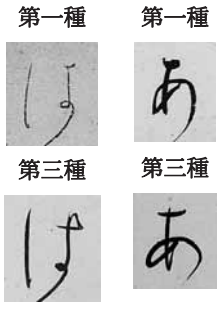
※古筆は原寸(以上も可)で臨書しませう。

(個人蔵)

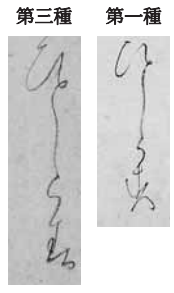
※掲載図版・70%に縮小
(P53に見やすい図版があります)

かな研究部臨書課題
特別研究部臨書課題

〔半紙普通判(料紙可)・縦長に使用〕
 別紙を裁断して貼付も可。半横紙は半紙サイズに切って使用のこと。
 左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)
 B.A. 大作の部 毎日展審査員 会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可
 小品の部 半切以上、半切以内(縦横自由)
 八いずれも左記の掲載以外も可。V



〈解説〉「よみひとしらす」の「ひとし」の部分を一種と三種とで右に並べた(一種は別の部分を揭示)。一種は字の1画目を小さく書く傾向があることを見て取っていただきたい。「ひ」も「と」も第1画が短い。
 一種の書者は字の上部の横画を小さく短くする癖があると言いかえてもよい。特に「あ」や「は」(2画目)「が」が顕著である。別の部分から抜き出し、三種と比較しておく。(編集部)



漢字規定 初段以上 【6月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

辻元大雲 選書



荷風送香

よみ (荷風香を送る)

書体||自由

習い方解説 (2)

辻元大雲

荷風送香

(荷風香を送る)

(孟浩然)

蓮の花が風にしたがって香気を送ってくる

今回はやや重厚な運筆で、顔真卿の祭姪文稿を意識して表現してみました。筆は羊毫中鋒の和筆を使用しました。「荷」は蓮を意味し、蓮の香を乗せた風が渡ってくる初夏の風情でしょうか。素適な語句です。

祭姪文稿の重厚、躍動感ある書風を意図し、肉厚な筆致で力強く運筆しています。中鋒または短鋒系の筆が向いています。書体も自由ですので楷書、草書、隸書など多様な選択ができます。色々工夫してみてください。

落款は平凡に書いていますが、表現内容に合わせて下さい。

※「審査委員の部」に出品する方は、44ページをご確認下さい。

〈編集部〉

漢字規定 秀級以下 【6月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

大平 邑峰 選書

精 良 金 玉

邑峰書

精 金 良 玉

よみ (精金良玉)

書体 楷書

習い方解説 (2)

大平 邑峰

精金良玉

(精金良玉)

(程頤)

純粹で穏やかな性格のたとえ

初唐の三大家の一人、虞世南の孔子廟堂碑は、字形がやゝ縦長で、点画は柔らかく、筆は総じてゆっくりと伸びやかに運ばれている。同時期に宮廷に仕えていた歐陽詢の謹直な楷書とはかなり異なった書風である。三井文庫にある天下の孤本といわれる唐拓本を直接見たときの感激は忘れ得ぬ思い出である。伸びやかな線の表情は優しく、ぬくもりを感じるものであった。

歐陽詢との違いはどこにあるのかを意識しながら筆を執った。書く上では、特に向勢や遠勢という書道用語に注目したい。線の中ほどでの筆圧の強さ、丸みのある字形、遠くから入筆して、終筆は力むことなく遠くへ筆を放ちながら次に移ることなどを心がけた。

かな規定 初段以上 【6月15日締めきり】 用紙 半紙普通判(料紙可)

平川峰子選書

習い方解説 (2)

平川峰子

五月雨さみだれにかくれぬものや瀬田せただの橋はし

(芭蕉「ひまわり」)

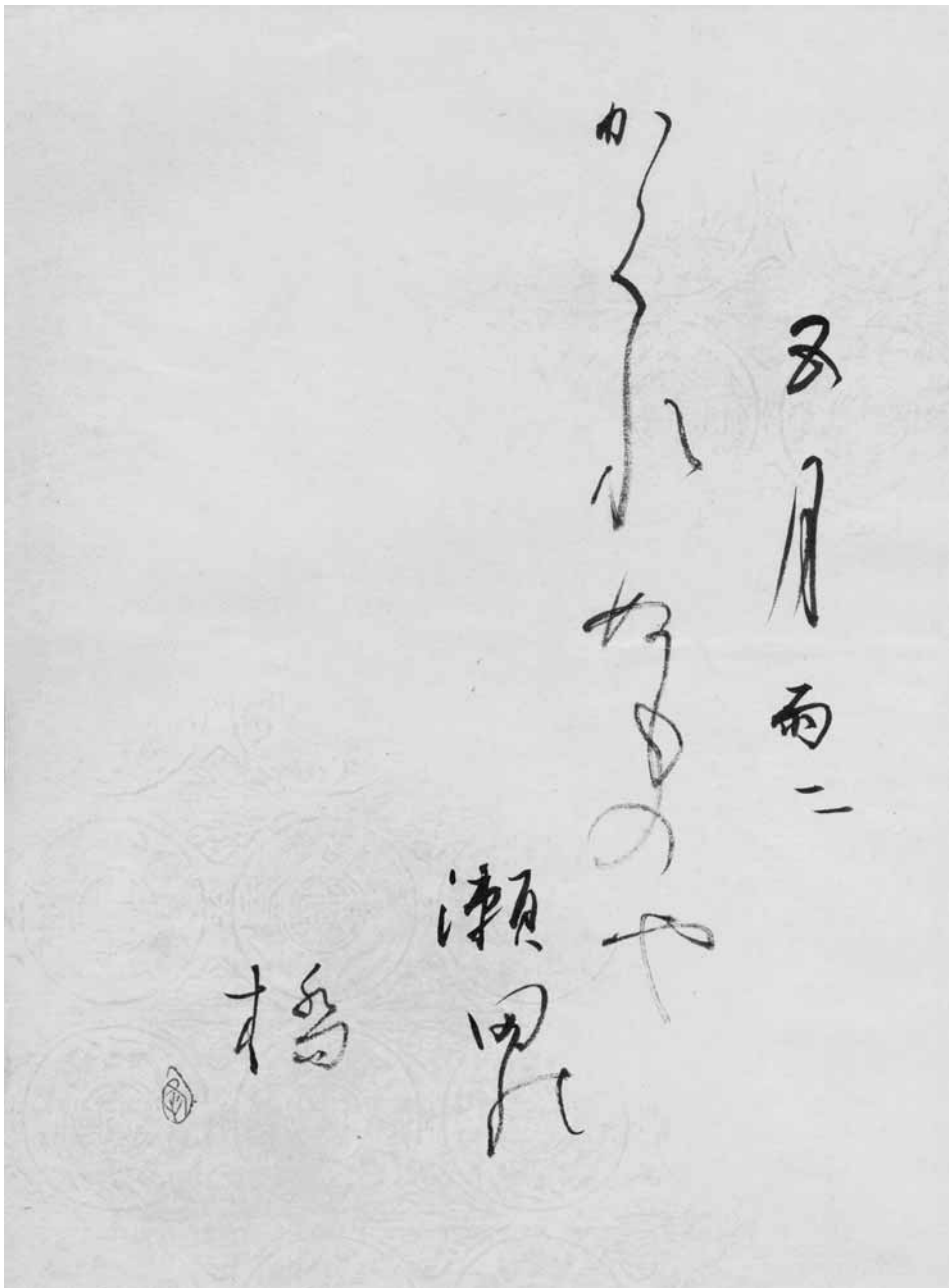
五月雨に降りこめられて、湖面も湖畔の景色もすべて姿を消し去っている中に、瀬田の唐橋だけが墨絵のように横たわって見えることだ。

芭蕉45歳(1688年)の時の作。

瀬田の橋は、歌川広重の浮世絵、近江八景「瀬田の夕照」として描かれている。ことわざ「急がば回れ」の語源として有名。

瀬田の唐橋は琵琶湖の南端から瀬田川が流れ出す場所の少し下流にかけられています。かつて東から京都に向かうには必ず通らなければいけない交通の要衝地だったため、歴史上多くの戦乱に登場しました。

俳句の書作品はなるべく変体がなにご置き換えないようにしています。この俳句には伸ばせる文字が少ないのでれとやを少し伸ばして流れを出しました。墨継ぎは下方の「瀬」でした。



よみ方 五月雨に(二)かく(久)れぬものや瀬田の(能)橋

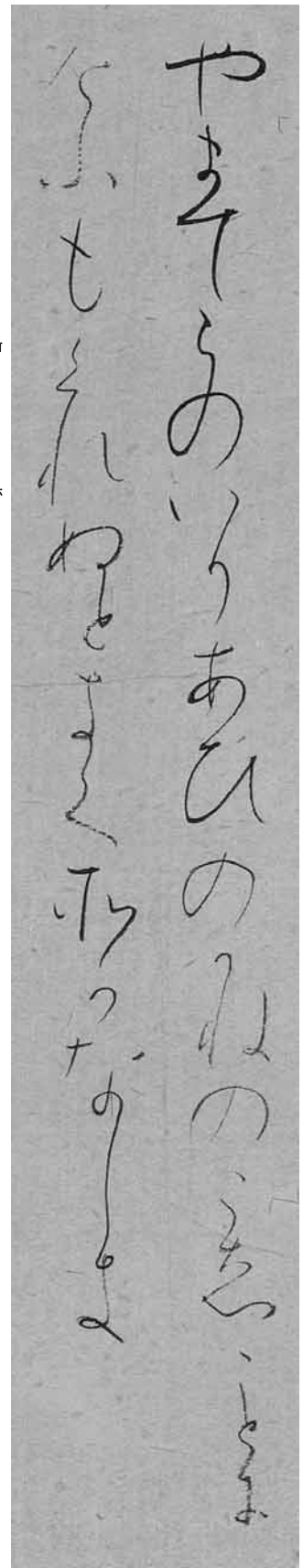
創作

*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。半懐紙は上記のサイズに切って下さい。

〈編集部〉

※「審査会員の部」に出品する方は、44ページをご確認下さい。

かな規定 秀級以下 【6月15日締めきり】 用紙 半紙タテ1 $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)
 掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。粘葉本和漢朗詠集(掲載写真拡大120%)



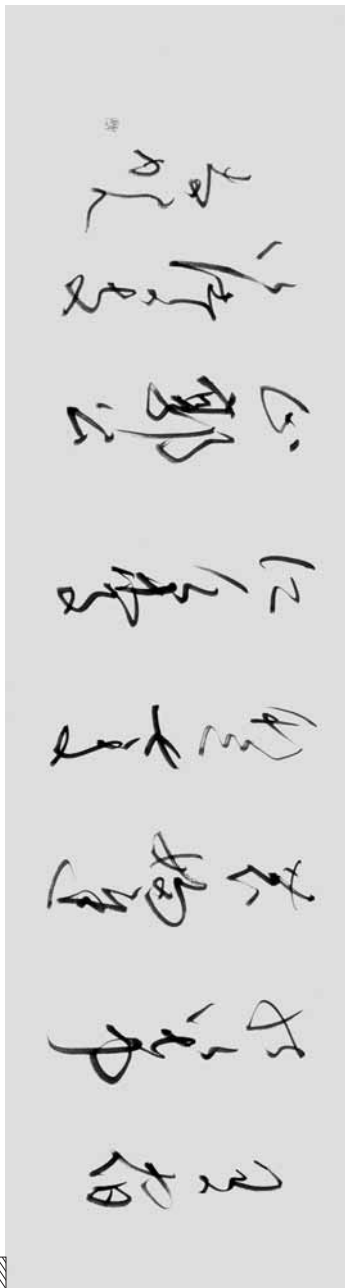
よみ方 やまでのいりあひのかねのこゑことに
 けふもくれぬとさくぞかなしき

歌意 山寺から夕暮れ時の鐘の音が響いてくるたびに、一日が終わった合図として聞いておりますが、いつだって(諸行無常が身にしみて)悲しい気持ちになるのですよ。

習い方解説 (2)

須田清子

わがやどの池の藤波さきにけり
 山郭公いつか来鳴かむ
 (読人しらず「古今和歌集」)



かな条幅規定 【6月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切(料紙可) 須田清子選書

よみ方

わ(王)が(可)宿の(能)いけ(希)の(農)ふ(婦)ぢ(遅)な(那)み(三)さ(支)にけ(介)り(李)
 山郭公いつ(徒)か(可)き(支)な(奈)かむ(无)

創作

*ヨコ形式に限る

出品券
 貼付位置

行書きのオーソドックスな横作品です。書き出しは1文字ほど下げて、中ほどの4行目の文字数を増し、全体が山型になるようにしました。また行が多いため、隣り合わせの文字の大小、広狭などが同じにならない工夫をしました。加えて、行間の余白の配慮も大切なポイントになります。墨継ぎは4行目「さ」でしたが、7行目「いつか」でもよいでしょう。

漢字条幅規定 初段以上 【6月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書



新月細如眉 春雲長似帶 幽禽堪夜寒 宿在梅花外
(新月細くして眉の如く春雲長くして帯に似たり 幽禽は夜の寒きに堪え宿りては梅花の外に在り)

書体||自由

出品券
貼付位置

漢字条幅規定 秀級以下 【6月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

千葉蒼玄選書



萬壑水聲春
(万壑水声の春) (杜牧)

書体||自由

習い方解説 (2)

半田藤扇

今月は横作品ですが、一貫した流れの中で、中央部への盛りあがりを出すことが大切です。文字造形もやや、懐ろの広い、ゆったりとした運筆にする書き方もよいでしょう。

行間のとり方が大変難しいのではないのでしょうか。

余白の美しさを出す書きぶりを心がけてみて下さい。

※ヨコ形式に限る

習い方解説 (2)

千葉蒼玄

谷川の水の音までが春らしい。壑は谷間

書は文字の形を書くのではなく、言葉や意味、気持ちをよくみ取って表現することが重要です。

今回は太めの線を使い、暖かな雰囲気表現してみました。

草書は書の空間表現において重要な書体です。よく出てくる文字

水、聲、花などを覚えることは、漢詩作品を鑑賞する上でも意味や表現がより深く理解でき、季節や風景を感じられるようになります。

盛年重ねて来たらず
 一日再び晨なり難し。
 時に及んで当に勉勵すべし。
 歲月人を待たず。
 陶淵明「雜詩」美泉書

書体＝自由

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
 ◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

【注意】

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

習い方解説 (2)

川村美泉

有名な陶淵明の詩です。「雜詩」とは、折にふれて詠んだ無題の詩。

若い時は二度と戻ってこない。一日に二度と朝は訪れない。楽しめる時には、大いに楽しみましょう。歲月は人を待ってはくれません。課題は、この詩の最後の部分です。「人生は根帯無く、飄として陌上の塵の如し。」から始まっています。若い時には気づかなかった「歲月人を待たず。」最近はいよいよ身に沁みるようになりました。一日一日、今日やるべきことをやって、しっかりと足跡を残していきたいものです。連綿が4箇所あります。「ねて」「らず」「なり」「たず」。文字と文字をつなげる線が緩まないよう、リズムに乗って書きましよう。

盛年重ねて来たらず、
 一日再び晨なり難し。
 時に及んで当に勉勵すべし、
 歲月人を待たず。

陶淵明「雜詩」○○書

月の異名・旧暦・夏

4月 卯月(うづき)
孟夏・首夏・正陽
花残り月・更衣月

5月 皐月(さつき)
仲夏・盛夏・梅天
早苗月・月不見月

6月 水無月(みなづき)
晩夏・季夏・陽氷
風待ち月・熱月

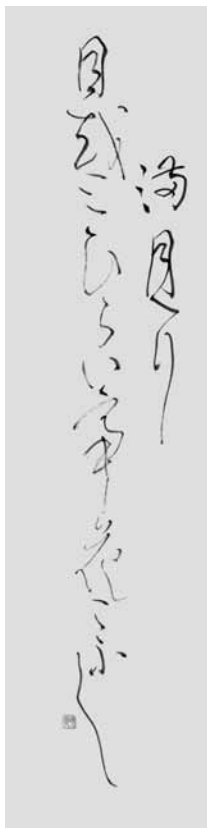
大平 邑峰

月の異名・旧暦・夏／4月 卯月(うづき)／孟夏・首夏・正陽／花残り月・更衣月／5月 皐月(さつき)／仲夏・盛夏・梅天／早苗月・月不見月／6月 水無月(みなづき)／晩夏・季夏・陽氷／風待ち月・熱月／氏名

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓名(号)を (掲載手本85%に縮小)
- ◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇所定の出品券を作品の右下に貼る

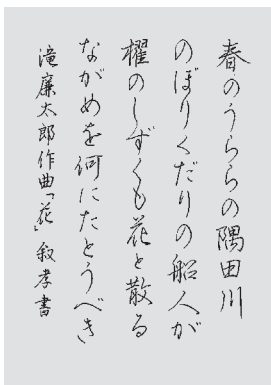


漢字条幅部 師範 梅津 恵華
石門頌を連想させる。横広の字形と細く柔らかな線が独特の趣きを生み出し成功した。



かな条幅部 五段 村上 和美
骨格のある線で渴筆が冴える。気脈で続く流れを主に、細身だが食い込んだ深い線が魅力となった。

ペン字部 師範 安藤 叙孝
字間行間のバランス良く字形も自然に流れる調和のとれた秀逸作。控えめで清楚な表現に魅了。
◎ペン字部総評 概ね誤字はなかったが濁点抜け散見。せっかくの力が上位に上がらないのは大変惜しい。再確認を忘れずに。(言枝評)



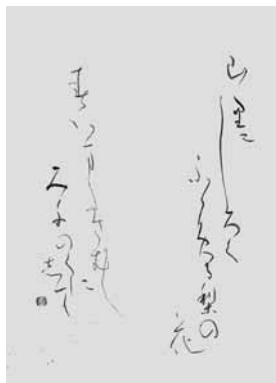
春のうららの陽田川
のぼりくだりの船人が
權のしずくも花と散る
ながめを何にたとう(き)
滝廉太郎作曲 花 叙孝書

◎かな条幅部総評 総体的に誤字も少なくよく仕上がっていた。太細や大小のバランスに巧拙あり、紙面全体をよく眺めたい。(洋子評)

◎漢字条幅部総評 上級は横形式の作品に多彩な表現が見られた。行草作品に誤字が多見。着実な文字調べを欠かさぬこと。(萬城評)



現代詩文書部 特選 澤 喜代美
文字造形が多様で紙面を大きくみせている。大胆さと繊細さが交じり合い詩情豊かな作品。
◎現代詩文書部総評 文字をただ書くだけでなく作品制作の意図を明確にして取組みたい。(宗苑評)



かな部 師範 篠田恵美子
創りすぎない線質に深く心を奪われる。この境地までたどり着く天性と修業に敬意を表します。
◎かな部総評 漢字や複雑な変体がない使用が減り、一目でわかり易い作品が増えたのは望ましい。かなとは何か再考のこと。(明子評)



前衛書部 特選 本間富士子
空間のバランス、筆先の集中みごと、飛沫、潤濁とても美しい作品に仕上がった。
◎前衛書部総評 リズムと造形、気力の充実した作品が多く出品され希望が持てる。(仙岳評)



漢字部 師範 鷺山 美梢
正々堂々の安定感ある字形と骨力の充実した線條、柔軟で雄大な運筆は当に横綱の風格を有す。
◎漢字部総評 今回、各体多彩な作を拝見。未消化な作も散見、骨気を身につけ、気韻生動を目指すべく多書してほしい。(石雲評)

選評 西川 翠嵐

謝恩会のお知らせ
日時 卒業式終了後
場所 ミーティングルーム
剣道部顧問の田中先生が今月で
ご退職なさいます。さ、やかな会を
企画いたしましたのでご参加下さい。
開始時刻は放送にてお知らせ致します。
幹事 石崎 甘雨

特選 石崎 甘雨

筆線伸びやかで行が通っており、流れある見事な書きぶりです。

謝恩会のお知らせ
日時 卒業式終了後
場所 ミーティングルーム
剣道部顧問の田中先生が今月で
ご退職なさいます。さ、やかな会を
企画いたしましたのでご参加下さい。
開始時刻は放送にてお知らせ致します。
幹事 高橋千代子

特選 高橋 千代子

表題と本文の間の余白ほどよく、漢字とかなのバランスが美しい。

◎實用書部総評

毎回のことですが周囲の余白も作品のうちです。今回のような場合、表題と本文のバランス、書き出しの高さも評価のポイントです。(翠嵐評)

Table with 5 columns listing authors and their works. Includes names like 秀作 (秀作), 秀作 (秀作), 秀作 (秀作), 秀作 (秀作), 秀作 (秀作) and various characters such as 石崎甘雨, 高橋千代子, etc.

(選外376名氏各略)



信美洋充聖
 子雪子律朋
 破筆に生彩感あり堂々作
 密度のある魅力的な作品
 スケールの大きい圧巻作
 墨色と線質の融合見事
 滲みよく空間の造形見事
 大胆な構成流れ美しく良
 鋭いタッチに深みあり
 用具、用材の工夫自由
 墨の中に楽しい運動力
 筆先の広がり、力強く優
 雅な中に楽しい運動力

七英陽菜
 生樹子々
 潤濁の変化が美しい
 屈託なく伸びやかで明るい
 気脈一貫して明るい作
 潤濁の変化が美しい
 温やかな筆致、温雅な作
 朴訥とした表情の意欲作
 屈託なく伸びやかで明るい
 気脈一貫して明るい作
 潤濁の変化が美しい
 温やかな筆致、温雅な作

澄彩順紅祥
 華絵香霞扇
 自然で大らか、温かい作
 句意を生き生きと表現
 余白輝く
 練達した運筆、温雅な作
 余白輝く
 巧みな構成、余白輝く
 難しい素材を品良く纏めた
 句意を生き生きと表現
 自然で大らか、温かい作
 多彩な線をみせ爽やか
 凝結が生みだす空間美有
 爽やかな筆致で叙情的
 圧倒的存在感生気溢れる
 温かさ有。強弱つけたい
 大らかな空気孕んでいる
 筆致流麗清々しい作
 紙面構成巧み余白生きたる
 潤濁細太の変化で律動的
 筆力充実、生気漲る

選評 大石仙岳

選評 熊谷宗苑

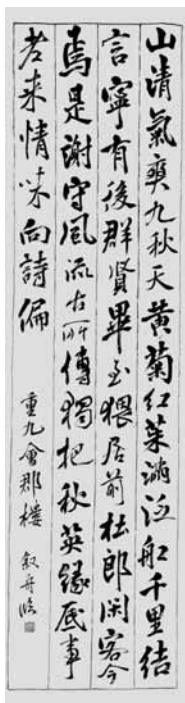
今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 北村白琉 種谷萬城 田村鄭雲

小品の部

臨書 (千葉)
竹浪叙舟
「蜀素帖」



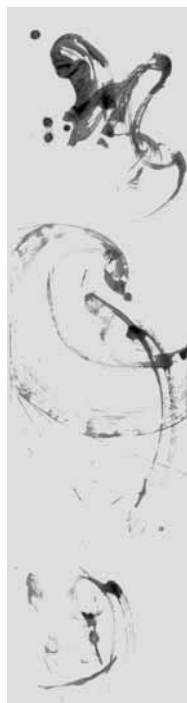
竹浪叙舟臨

136×35cm

◆原帖の再現に真摯に向かい、細太、大小、曲直の変化を着実に捉えた臨書作品。深い鑑賞の上に、巧妙な表現力が備わり出来あがる作品に敬意。

(萬城評)

前衛書 (秀水)
門脇信子
「穩」



門脇信子書

136×35cm

◆軽やかで爽やかな淡墨の3部構成の作。中心部の渴筆が大きく回転し、明るく魅力的な作品となった。

(白琉評)

現代詩文書 (四枝社)
奥川麗流
「北村透谷の詩」



奥川麗流書

136×35cm

◆長鋒の軽く走りがちな筆を使用し、しっかり紙面を穂先でつかみながら、重厚な線を沈着させ、存在感ある作となった。字形も良く、読み易い。

(鄭雲評)

漢字

(水莖)

高岡秀汀 「七言二句」



高岡秀汀書

135×35cm

◆「白白、紅紅、三三五五」の墨字を含む語句に挑んだ姿勢に拍手。荒々しい線で一貫した気迫に圧倒される。作者の表現意欲が前面に発露された快作。

(萬城評)

総出品点数
83点

〈小品の部〉

創作の部(40点)

漢字 6点

かな 1点

現代 17点

篆刻 0点

前衛 16点

臨書の部(43点)

漢字 42点

かな 1点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

粹仙 藤井 龍仙

〔かな〕

潮音 齋藤 杏邑

〔現代詩〕

玄穹 尾形 紅霞

恵月 重村 恵月

白扇 豊原 緑風

蒼風 笹木 蒼風

〔前衛〕

柳賢 二上 香柳

華芳 庄司 紫香

蓮紅 大友 紅蓉

白珠 高原 梨秀

〔臨書の部〕

〔漢字〕

東総 薄田 春緑

千葉 酒井 城園

八街 三浦 英樹

華祥 玉梨 天章

八街 相楽 良翔

千葉 山口 鈴樹

八街 三浦 小樹

蒼原 小津 昌弘

も 岡部 昌弘

小映 岡部 昌弘

八街 十河 春景

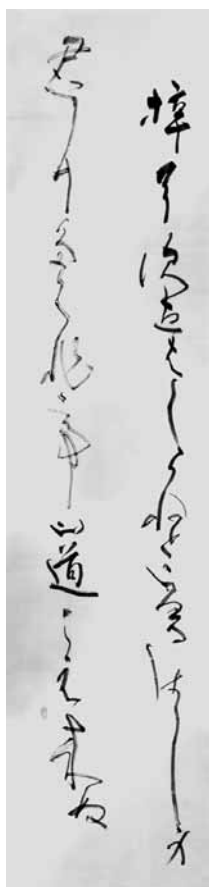
◆常連ではあるが、今回も統集切の太細やリズムをよく学び澄明なリズムで書き切る。書風の変わる部分も見事に掌握した。(洋子評)



境野和子臨

53×175cm

かな (松延)
藤原三枝子
「梓弓」



藤原三枝子書

225×53cm

◆巧みな墨量と自然な動きで好感の持てる作。長い線が少々単調なのが気になるが、渴筆のリズムが小気味よく、質朴さで魅せる。(洋子評)

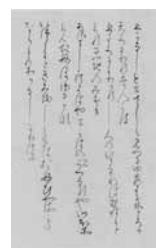
前衛書 (紅瑤)
廣田紫
「挑」



廣田紫書

180×60cm

◆ダイナミックで強靱な線が紙面を躍動し、見る者を圧倒する。空間処理も上手な佳作。(白琉評)



部分拡大



平野笛舟臨

135×51.5cm

◆線の切れ味が良く、爽快感に溢れる作品。太細の変化、線の表情、字形の特徴を的確に捉えた鑑賞力と表現力は流石です。(萬城評)

臨書 (千葉) 平野笛舟 「蜀素帖」

〈大作の部〉

創作の部(35点)

漢字 3点

かな 6点

現代 9点

前衛 17点

臨書の部(19点)

漢字 15点

かな 4点

総出品点数

54点

〈特選候補者〉

「創作の部」

「漢字」

秀惠 高橋 蒼香

阿部 雅悠

「かな」

水壑 伊澤 香雨

伊呂 鈴木 英晴

「現代詩」

大雲 奥村 美楓

四枝 大友 四峰

大雲 池田 沙静

千桜 金子 美千

「前衛」

愛香 大和 愛香

月華 浅野 黄扇

秀水 青木 かよ

月華 練生 川苑

容洲 阿部 昌里

玉州 遠藤 和香

「漢字」

大雲 青木 藤漣

澄春 宮原 香扇

英峰 新行 内芳蘭

素雪 佐藤 桂香

大雲 坂本 芳博

もく 鷺山 美梢

「かな」

千葉 松重 翠景

漢字研究部
(蜀素帖)

選評名越蒼竹

今月のホームページ作品



驚山美梢

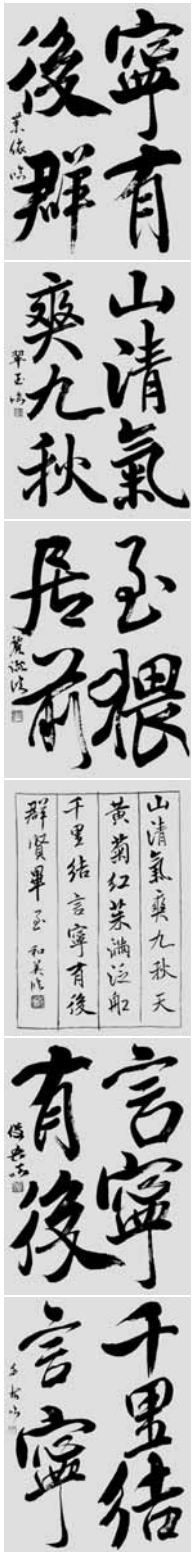
漢字研究部 特選 驚山美梢

観察力鋭く、鋒先まで神経の行き届いた素晴らしい臨書である。気分には流されず対象の文字を忠実に追いつながらも、運筆の抑揚と速変化をスムーズに再現した力量は賞賛に値する。落款の位置は再考の余地ありか。

◎漢字研究部総評

「蜀素帖」を学べば行書体に関するあらゆる用筆・運筆を学ぶことができると言われて

います。原寸ではかなり小さな文字ですが、運筆はダイナミックで用筆も多彩です。まずは虚心に原帖と対峙し、字形の特徴（やや縦長・頭部が左に傾く）や運筆の多彩な変化を読み取ることが大切です。提出作の中には原帖の観察が不足または無視したかと思われるものもかなり見受けられました。筆と墨と紙の取り合わせも大切なポイントです。



千俊和麗翠茱
秋吾美流玉依



惠直天祥照香
泉子翔風子柳



朱雅菜惠舜恭
星泉圓美水子



良谷一英睦藤
子惠惠晴月谷

かな研究部

(和泉式部続集切)

選評 佐藤希雲

今月のホープ作品



河合和敬

かな研究部 特選 河合和敬
形をよく取ったうえで、穂先を活躍させながら
自分のリズムで運筆をしています。古筆と向き合い
続けた地道な努力が実を結びました。
◎かな研究部総評
難しい古筆だったと思いますが、3か月継続し
た方は成果が出ているようです。何か行き詰まっ
た時、解決のヒントを与えてくれるのが「続集切」
です。



白蒼里 瑛和恵 百合朗 嘉美佳
瑠舟美 仙子子 子美 江梢恵

かな研究部成績表

特選	◎	賞状
河合和敬	大草	書道
苗代	加藤	和泉
小川	川崎	上野
七五三	加藤	小野
高木	河合	和泉
高木	河合	和泉
高木	河合	和泉
高木	河合	和泉
高木	河合	和泉
高木	河合	和泉
高木	河合	和泉
高木	河合	和泉
高木	河合	和泉
高木	河合	和泉
高木	河合	和泉
高木	河合	和泉

松村	入	高玉	竹白	泉露	伊呂	書祥	花扇	明正	華春	富貴	蒼春	光聖	素遊	遊大	高麗	大蒼	蒼う	春竹	正樹	樹明	玄明	蕙野	正椿	渡高	「澄	高橋	帝平	八田	楓無
松村	入	高玉	竹白	泉露	伊呂	書祥	花扇	明正	華春	富貴	蒼春	光聖	素遊	遊大	高麗	大蒼	蒼う	春竹	正樹	樹明	玄明	蕙野	正椿	渡高	「澄	高橋	帝平	八田	楓無

第77回書道芸術院展

〈併催＝第75回記念全国学生書道展〉

〈半紙の部 大賞作品〉



(中) 高 梨 安弥佳



(小) 松 田 帆 央



(小) 堀 内 翠 明



(高) 小 松 葡乃美



(高) 佐 藤 あ こ



(中) 蒲 原 美 月



(中) 宇 田 陽 香

いあいさつ

公益財団法人書道芸術院 理事長 下谷 洋子

ご入賞、誠にありがとうございました。

全国学生展は、本年75回展の記念展となりました。第1回全国学生展は1949年(昭24)条幅から始まりました。以後、全国学生競書大会として半紙の部を作り、1976年(昭51)まで毎年、学生書道展と学生競書大会と2本立てで開催してきましたが、2013年(平25)より公益財団法人認可に伴い、書道芸術院展との併催となりました。学生展を経験し、現在、書道芸術院で活躍している先生はたくさんいらっしゃいます。

今回も、記念展ということもあり、全国の幼稚園・小学生から大学生まで広く、また多数ご応募をいただきました。深く感謝申し上げます。半紙の部、半切1/2の部とも、それぞれ力強く、丁寧に、長い時間をかけて書かれた力作ばかりでした。学習指導要領に基づき、書写からさらに発展し、表現力のある生き生きとした見応えのある作品や、高校生以上では古典臨書から創作まで、多様で多彩な作品で充実していました。

審査は、当番にあたった先生方で何日もかけて行われました。公平、厳正に、また今後への奨励も含めて各地のバランスにも考慮しました。応募された皆さん、ご指導された先生方、お子さんを支えて下さったご家族、ご友人など、全ての皆さんにも感謝申し上げます。

今回は、表彰式(上位賞のみ)がヒューリックホールに変わりました。展示会場での席上揮毫会、ワークショップは昨年同様行い、記念事業として指導者のための講演会も企画しています。

第77回書道芸術院展、併催の指導者作品展示もあわせてご高覧いただき、ご指導をお願い申し上げます。

〈半紙の部 準大賞作品〉



(小) 竹本 汐莉



(小) 東 咲希



(小) 松倉 美奈



(中) 武田 実玖



(中) 山本 朱樹



(中) 川崎 心海



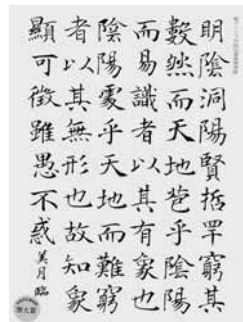
(中) 深田 真央



(中) 澤田 夏彩子



(中) 田中 明日風



(高) 櫻井 美月



(高) 内川 千歩



(高) 柴原 さくら



(高) 安藤 穂美

〈半紙の部 第75回記念賞〉

陽光

四年 坂本麗衣

(小)坂本麗衣

星の夜

堂島岡楓花

(小)島岡楓花

池の草

六年 森田花

(小)森田花

夕映えの富士

中一 本田知花

(中)本田知花

緑の惑星

中 貞包実花

(中)貞包実花

台所仕事

中一 中山采音

(中)中山采音

自由思想

中二 東桜雅

(中)東桜雅

栄養満点

土佐 二年 中岡桃子

(中)中岡桃子

西部都府

高一 森泉えりか

(高)森泉えりか

柱國魯郡

高 松本泰誠

(高)松本泰誠

魏靈藏 障法紹

高二 藤本晴

(高)藤本晴

為國造 石室寺

音羽 臨

(高)石澤音羽

へ半切 1/2 の部 大賞 作品 へ



(中) 星 紀 怜



(小) 新 延 愛 子



(高) 千 葉 ましろ



(中) 柴 田 恵 伶 那

〈半切1/2の部 準大賞作品〉

小五 大槻海斗
和紙

(小) 大槻海斗

中一 武田風
感動

(中) 武田風

小六 田口杏優
笑顔

(小) 田口杏優

中三 大山有登
真摯

(中) 大山有登

中一 川名尊士
未知

(中) 川名尊士



(高) 清水環

〈半切1/2の部 第75回記念賞〉

小五 井上知佳
花畑

(小) 井上知佳

中二 山本陽天
泰然

(中) 山本陽天

中二 伊東明咲
勝利

(中) 伊東明咲

中三 奈良部悠斗
開眼

(中) 奈良部悠斗

中二 雨宮千紗
勝利

(中) 雨宮千紗

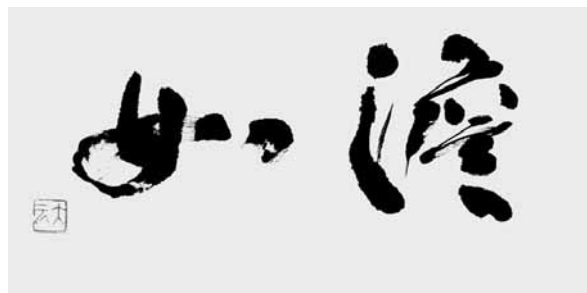
顔騰之賀
道力並便

(高) 池澤未唯

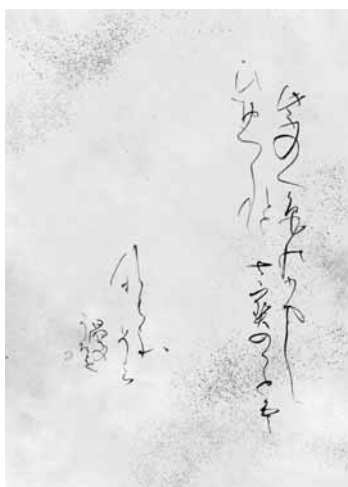
第75回記念 全国学生書道展
「指導者作品展」役員作品



「生」
顧問・名誉会員
香川倫子



「澹如」 顧問・名誉会員 辻元大雲



「紫の」(与謝野晶子)
運営委員長
下谷洋子



「衆生」 実行副委員長 後藤大峰



「鶴寿」 実行委員長 小竹石雲

※規定部の「漢字部門・初段以上」と「かな部門・初段以上」に「審査会員の部」を設ける。

競書出品規定

●規定部

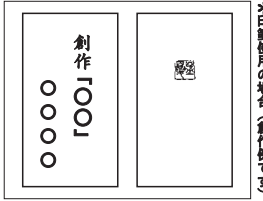
部門	段級位	用紙	書体・内容	漢字		かな		漢字条幅		かな条幅		ペン字	
				初段以上	秀級以下	初段以上	秀級以下	初段以上	秀級以下	初段以上	秀級以下	師一範	師一範
		半紙	創作(楷書)	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙
		半紙	創作(楷書)	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙
		半紙	創作(楷書)	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙

●前衛書部

半紙縦使用に限る。

●現代詩文書部

半紙縦使用に限る。



●研究部

部門	用紙	書体・内容
漢字研究	半紙	掲載の古典の臨書、文字数自由(掲載部分以外の箇所は不可)
かな研究	半紙	掲載の古筆の臨書、歌一首以上を書く、全文も可(掲載部分以外の箇所は不可)

●篆刻部

△出品規定

- ① 篆刻
 - ア. 課題による語句
 - イ. 原印は自由
- ② 創作
 - 語句は自由

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋については市販のものでも、半紙横 $\frac{1}{2}$ の大きさに切ったものでも可。(上の例参照)
- 篆刻と創作の両方に出品することはできない。どちらかを選ぶこと。

●実用書部

△出品規定

- 用紙
 - 半紙横 $\frac{1}{2}$ (24×16.5cm)、B5コピー用紙縦(26×18.1cm)も可。
 - 課題
 - 掲載語句を書く。
 - 毛筆小筆、筆ペン、サインペンも可。
- ※規定部から実用書部までは、月別出品券を貼ったバーコード券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。
- ※特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

●特別研究部

特別研究作品				作品サイズ	内容
B. 小品の部		A. 大作の部			
臨書	創作	臨書	創作	○ 毎日展審査会員・会員サイズ以内 (縦横自由) 1. 8尺×61cm (2尺) 2. 6尺×79cm (2尺) 3. 5.8尺×85cm (2尺) 4. 4.5尺×106cm (2尺) 5. 3.6尺×121cm (2尺) 6. その他 毎日展一般公募サイズ・全紙も可	漢字・かな・現代詩文書・前衛書の各部門の創作作品競書 書道芸術掲載研究部 古典鑑賞(漢字研究)の臨書作品競書 古筆鑑賞(かな研究)の臨書作品競書 ※掲載以外の部分可
1. 小画仙半切以内、半切 $\frac{1}{2}$ 以上 2. 全紙 $\frac{1}{2}$ (約68×68cm)以内も可 (縦横自由)					

※「特別研究部」大作の部・小品の部(創作・臨書) 1人1点出品

●出品資格 高校生以上

●月例競書作品出品の心得

1. 締切日必着厳守
 2. 月別出品券を貼付していないバーコード券は認めない
 3. 月別出品券のコピーは不可
 4. (一)初めて出品のときは「新」
(二)2回目出品のときは10級欄を参照
○印は昇級(1級上の級を書く)
(三)課題違反・落款なし等の違反作品は審査対象外とし、違反作品として氏名を掲載します。
※△印段級誤記入
※△印作品審査後着
- * 記入する数字は、
級位は算用数字1、2、3...
段位は漢数字 初、二、三...
で書いてください。
- * 級位の方は、出品する月の本誌(最新号)で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。

5月号(77)の「古典鑑賞(離洛帖)」・臨書の手引き〔骨書き〕

草名
下段参照

此之離洛之後事
新教(馬)時之其云
於寺者(白)也就中
殿下(何)事(何)事

△佐理△謹言。離洛之後、未承△動靜、恐鬱之甚、異△於在都之日者也。就中、△殿下何等事御坐哉。

草名筆順

△案1△

△案2△

此之離洛之後事
新教(馬)時之其云
於寺者(白)也就中
殿下(何)事(何)事

☆P11の「高野切第一種（伝紀貫之筆）」の課題を原寸で示しました。ご活用下さい。

い

よ

あ

あ

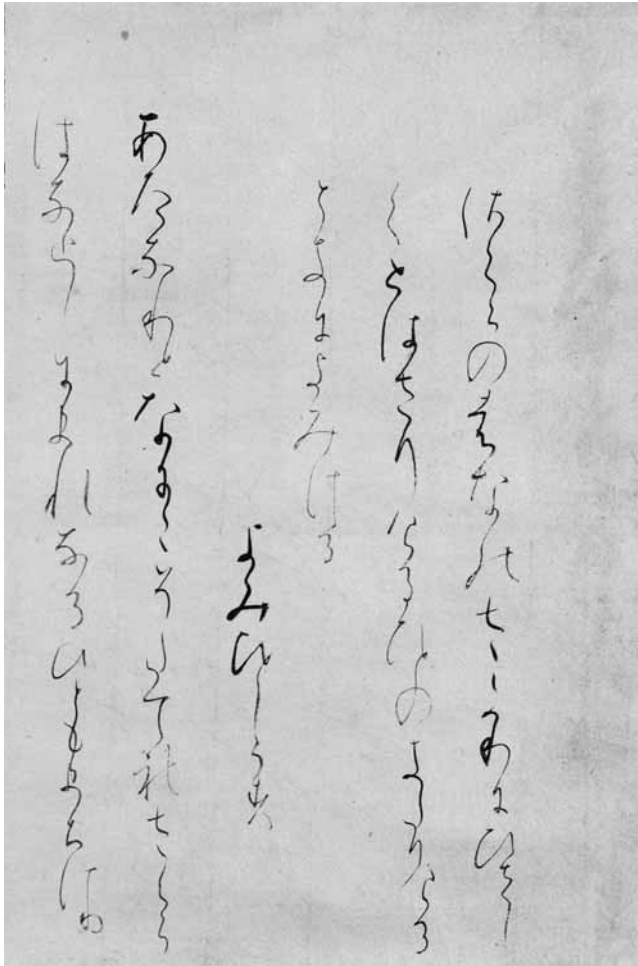
ふ

お

古筆鑑賞

243

高野切第一種 (伝 ^{きのつらゆき} 紀貫之筆) ③

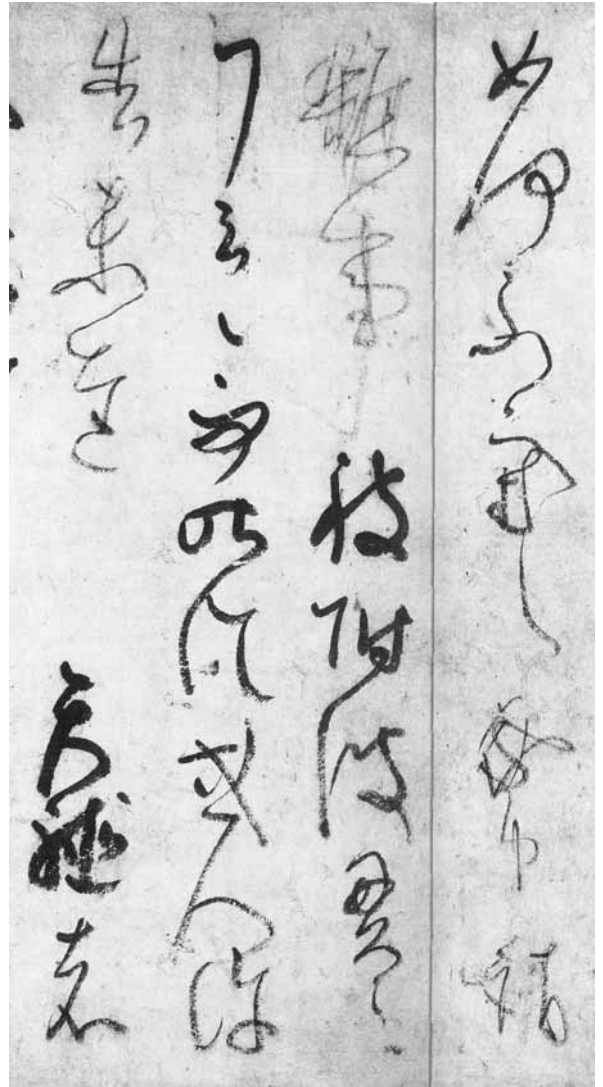


(掲載図版・55%に縮小)

古典鑑賞

469

さり ^{とう べんじょう} 佐理書状③ (頭弁帖) ^{とうのべんじょう}



(掲載図版・50%に縮小)

〈よみ〉
さくらの はなの さかりに、ひさし／＼と
はざりける ひとの きたりける／＼とき
によみける／よみびと しらず／あだな
りとなにこそ たてれさくら／ばなし
にまねなる ひとまぢけり

如何。不審々々。^{不審}。佐理^{事名}申請
雑事、被附彼貫主
了云々。而昨從或人許
告。未達天聰者。

●篆刻

【6月15日締めきり】

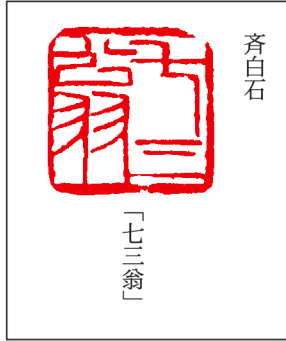
〈出品規定〉

- ①摹刻 (ア)課題による語句 (イ)原印自由 (出品の際、原印) のコピー添付
- ②創作 語句自由

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横1/2の大きさに切ったものも可。
- 応募は①か②のどちらかとする。

5月号 篆刻課題

〈原印コピー〉

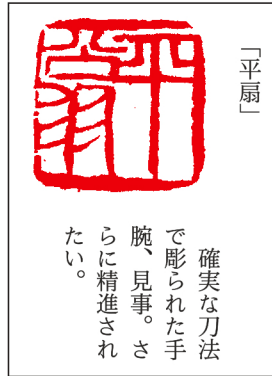


◎出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の釈文を明記、並びに落款(氏名)を入れる。

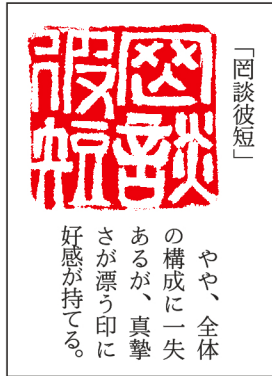
755号篆刻優秀作品

篆刻特選 成田能喜



確実な刀法で彫られた手腕、見事。さらに精進されたい。

創作特選 坂本覚山



やや、全体の構成に一失があるが、真摯さが漂う印に好感が持てる。

◎篆刻部総評

篆刻、創作ともにやや、質、点数ともに今一步の感がありました。さらに1点でも多くの出品を期待したいと思います。(大峰評)

選評 後藤大峰

(摹刻) 特選 成田能喜 (創作) 特選 坂本覚山

石心	秀作(50音應)	慈空	特選
大雲	小沢 華仙	坂本 覚山	
大綱	片岡 豪峰	生大 中島 義則	
蒼原	鷺山 美梢	粹仙 藤井 龍仙	
遊雲	庄司 櫻空	佳作(50音應)	
丸山	中川 研治	唯一 逢沢 唯一	
入選(50音應)	加藤 妙子	富見 野木 紫蘭	
丸山	加藤 妙子	趙雲 吉田 恵弦	
丸山	加藤 妙子	入選(50音應)	
丸山	加藤 妙子	香書 須賀澤 一起	

今月の注目作

中島義則



昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和六年四月二十五日 印刷
令和六年五月一日 発行

(毎月一回一日発行) 書道芸術 第七五七号

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区
東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

公益財団法人書道芸術院

電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957

ご連絡等は月曜日～金曜日10時～16時の間に
お願いいたします。(土日祝日は休み)

送料

- 1か月の購読部数か
- 1部～9部までの1回の郵送料
- 1部 79円
- 2部 95円
- 3部 103円
- 4部 119円
- 5部 135円
- 6部 151円
- 7部 167円
- 8部 183円
- 9部 199円
- 10部以上は送料免除

令和六年四月二十五日印刷
令和六年五月一日発行

定価 1部 七五〇円

編集兼 発行人 下谷洋子

発行所 株式会社リンクス
小沢写真印刷株式会社

公益財団法人書道芸術院

101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7
東神田プラザビル3階
電話(03)3862-1954

FAX(03)3862-1957
振替00150141335058
http://www.jlms.co.jp/shogei/